

フォト五七五二本松

安達公民館ロビー 俳句 作者名一覽 (俳号)

時期ときでなし温室に咲くひつじぐさ
(ときでなしおんしつにさくひつじぐさ) 安齋克仁 (かつに)

春風を受くる風車のゆるゆると
(はるかぜをうくるふうしゃのゆるゆると) 安齋克仁

LEDあぶくま洞の新はる春飾る
(えるいーであぶくまどうのはるかざる) 安齋克仁

若葉風わが飲み水の空の色
(わかばかぜわがのみみずのそらのいろ) 安齋克仁

雪しろのあかるく映す邑むらの庭
(ゆきしろのあかるくうつすむらのにわ) 安齋克仁

夕闇に光り残して石露いっろの花
(ゆうやみにひかりのこしてつわのはな) 安齋克仁

陽春や木々みな目醒め競い合ふ
(ようしゅんやきぎみなめざめきそいあう) 安齋克仁

研けんして見せぬ姿のほととぎす
(こだましてみせぬすがたのほととぎす) 安齋克仁

溝蕎麦の映えし水影酒の国
(みぞそばの映えしみずかげさけのくに) 安齋克仁

ご褒美は頂きの上智恵子晴れ
(ごほうびはいたただきのうえちえこばれ) 官野 哲 (さとる)

んまいぞいふくしま訛り味自慢
(うんまいぞいふくしまなまりあじじまん) 官野 哲

気に入った訳でもないが仮住まい
(きにいったたわけでもないがかりずまい) 官野 哲

煤塗りの梁にも届き餅の花
(すすぬりのはりにもとどきもちのはな) 菅野正男

蚊を打ちてさびしくなりしひとり者
(かをうちてさびしくなりしひとりもの) 菅野正男

極楽に届きし顔の昼寝かな
(ごくらくにとどきしかおのひるねかな) 菅野正男

七五三縄を縛える吾子の手赤くはれ
(しめなわをなえるあこのてあかくはれ) 野里ゆり子

キャンプ地のカレーの臭い夜の森 野里ゆり子
(きやんぷちのかれーのにおいよるのもり)

聖夜月重ねて願う若夫婦 野里ゆり子
(せいやづきかさねてねがうわかふうふ)

一夜城のざわめき果てて月渡る 丹野 栄
(いちやじょうのざわめきはててつきわたる)

干し柿やほどほど甘き昭和あり 丹野 栄
(ほしがきやほどほどあまきしょうわあり)

如月やビル屋上のお稲荷さん 丹野 栄
(きさらぎやびるおくじょうのおいなりさん)

あらたふとわらし子のごとふ冬牡丹 丹野 栄
(あらとうとわらしごのごとふゆぼたん)

冬の虹安達野原を大跨ぎ 丹野 栄
(ふゆのにじあだちのはらをおおまたぎ)

春光や一人一人に神宿る 野里安雄 (安のり)
(しゅんこうやひとりひとりにかみやどる)

ばちさばき心一つに夏祭り 野里安雄
(ばちさばきこころひとつになつまつり)

傘を持つ人待つ地藏桜かな 野里安雄
(かさをもつひとまつじぞうさくらかな)

爽やかやあなたと同じ夢のなか 野里安雄
(さわやかやあなたとおなじゆめのなか)

あぢさゐの心に惑う漢かな 服部栄一 (一燈子)
(あぢさいのこころにまどうおとこかな)

柚子湯して女心の謎いくつ 服部栄一
(ゆずゆしておんなごころのなぞいくつ)

万緑や導く先は里の山 服部栄一
(ばんりよくやみちびくさきはさとのやま)

あいづにはあいづの雪の色ありぬ 花房幸道
(あいづにはあいづのゆきのいろありぬ)

足跡をたどりて飛沫氷湖 花房幸道
(あしあとをたどりてしぶきこおりうみ)

雪しまき大地のうねり描き出す
花房幸道
(ゆきしまきだいちのうねりえがきだす)

「いつ帰る?」「みんなと同じ日にしよう」花房幸道
「いつかえる?」「みんなとおなじひにしよう」

海渡る浅黄斑あさぎまだらに恋をして
花房幸道
(うみわたるあさぎまだらにこいをして)

邯鄲や眼下ひに福島盆地の灯
花房幸道
(かなたんやがんかにふくしまばんちのひ)

ふくしまの空取り戻せ立葵たちあおい
花房幸道
(ふくしまのそらとりもどせたちあおい)

沼の径遠足みちの声近づき来
花房幸道
(ぬまのみちえんそくのこえちかづき)

一年の計を談じる初雀
古山文雄 (ふみお)
(いちねんのけいをだんじるはるすずめ)

持て成しの三色すみれ田舎駅
古山文雄
(もてなしのさんしょくすみれいなかえき)

停車場を労う虹の大輪かな
古山文雄
(ていしゃばをねぎらうにじのおおわかな)

停車場にぼつんと登る秋の月
古山文雄
(ていしゃばにぼつんとのぼるあきのつき)

霜晴や銀輪並ぶ田舎駅
古山文雄
(しもばれやぎんりんならぶいなかえき)

手解きのお国言葉の雪を掻く
古山文雄
(てほどきのおくにことばのゆきをかく)

雛の笑み曾孫の笑みへ重なりて
古山文雄
(ひなのえみ曾孫のえみへかさなりて)

紐一本残し悩める雛納め
古山文雄
(ひもいっぽんのこしなやめるひなおさめ)

